

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体及び事業所独自の理念をかかげ、日々の生活支援の糧とし、スタッフ間での共有を把握、再確認しながら実践につなげるようにしている	法人理念や隣接する特別養護老人ホームの処遇理念を指針としてきたが27年春に、ホームの理念を職員が考え「個人を大切に、喜びある暮らしをお手伝いします」、「個人の生き様・生き方を共に過ごしながら共に考えていきます」の2つを作った。玄関や居間に掲示し外部の方にも分かるようにしている。新しいホームの理念を共有することで職員の言動にも変化がみられているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に散歩に出かけ、近所の方たちと話をしている。また、時期に応じて野菜や果物などをいただいたりしている	区費の支払い等が隣接する特別養護老人ホームで行われている。近隣の方々からの野菜や果物の差し入れを頂き、地域の方からの認知症等の相談の受け入れ態勢もできている。専門学校生徒の実習や中学生の体験学習の受け入れも行われている。特別養護老人ホームと合同で行った「夏祭り」は回覧板等で開催告知をし大勢の住民の参加があった。編み物や歌、紙芝居などのボランティアの訪問があり、特に毎月の保育園児との交流が一番の楽しみとなっており、感染症が心配され中止になった時には利用者ががっかりしていたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や各種行事等を通じて、認知症の理解を深めて頂けるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画、事業報告、入居者へのサービス提供内容、各種行事への参加、防災協定など役員の方々の意見等を聴取、反映して事業につなげている	2ヶ月に1回開催している。家族、区長、民生児童委員、自警団長、市職員、地域包括支援センター職員などで構成され、事業計画や利用者状況などを報告し意見をいただいている。昨年の外部評価結果を委員の方々に提示し意見を聞くと「今まではホーム内で何をやっているかよくわからなかったが、改めてホームでの利用者に対する対応が大変だと感じた」との発言があったという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や苦情、相談、事故対応、入居状況など各機関と情報交換をしながら指導、助言をいただき改善策等に活かしている	疑問なことや事故報告などは直接市へ出向いている。昨年の事故報告の時には対策などを考え防止策を提案していただくなど、良好な関係ができています。毎月、介護あんしん相談員が訪れ利用者の話などを聞いている。介護認定更新の代行申請をし、更新時の調査員への利用者の状況説明なども正確に伝えていく。市主催の会議や勉強会にも参加している。	

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会を中心に委員会活動内容を事業所内で話し合ったり、対応困難な事例などは各機関に相談をしながら対応している	日中は玄関の施錠を行っていない。事故が起きないように市担当者と相談しながら利用者の安全に配慮しながら状況によっては家族に了承を得て短時間のみ施錠することがある。ホーム内には「身体拘束0」のポスターが掲げられ来訪者に宣言しており、職員は定期的に研修を受けている。外出願望のある方には状況などを説明することで理解していただいたり職員が付き添い出かけたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ふれあい荘、GH会議や研修において話し合いをしたり、学ぶ機会を設け、防止の徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修等に参加、また有識者からの指導を受け、知識向上に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明を行い、理解、把握して頂いた上で契約につなげている。また、料金改定の際には書面での案内を行い、質問等に関してはその都度回答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を通じて意見等を聴取したり、意見箱を設置して外部からの声に耳を傾けるようにしている	自分の意思を言葉で伝えられる利用者は半数ほどで、押し花や編み物をしたい、歌を歌いたい等の声も聞こえてくるという。年2回、敬老会と忘年会を兼ねた家族会があり、また、夏祭りなどへの家族の参加もある。忘年会では食事会の前に事業計画や次年度の役員選出など、家族とホームとの意見交換の場があり、その後、家族同士の苦労話などの機会となっている。家族の来訪は多い方、数ヶ月に1回と様々であるが、直接職員に要望等を伝えることが多いという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を聞き、業務に反映できるよう取り組んでいる。また、定期的に個人面談も行い、内容事項によっては代表者等を含む会議に取り上げ検討している	毎月1回全体会議を開き、その後、各ユニットに分かれカンファレンスを行っている。職員は昨年より基本的にユニット固定としている。1年に2回課長による個人面談を行い、個人の家庭状況に合わせた勤務体制についても話し合い、施設長が報告を受けている。今後は人事考課に繋げていく予定であるという。働きやすい環境で多くの職員は勤務年数が長く利用者との一つひとつの関りを大切にしている。	

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	就業規則の見直しや必要な制度を取り入れ、年1回は雇用に関するアンケート調査を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの学習する機会(内部、外部)を設けている。また、レベルに応じた研修計画を立て実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的ではないが、必要に応じて同業者の施設見学やサービス内容等について話合いの場を設けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聴取が困難な場合は、担当ケアマネや家族からの情報を基に入居前面談を行い、不安や要望等を聴取、本人の便宜を図るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み、見学時などに面談を行い、要望等を聴取しながら関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申込み時などに、相手の意向を勘案しながら当事業所、または他施設の紹介や案内をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、できる事は一緒に行っている。内容によってはスタッフが教えて頂くこともあり、相互の関係を築けるよう努力している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の希望内容に応じて家人に連絡、協力を依頼している。家族会も立ち上げており、家人を含めた食事会等も定期におこなっている		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じた対応をスタッフ、家人と連携を図りながら対応している。面会、外出外泊など自由に行ってもらっている	友人の訪問を受けたり、正月に泊りで帰宅する方、また、お盆に家族とお墓参りに出掛ける方などがある。節分の豆まきやお盆のかんぱを焚いて先祖をお迎えする等、四季折々の行事もホームで行っている。訪問美容の利用もあるが、パーマをかけたいと家族と馴染みの美容院に出かける方もいる。国旗を掲揚してお祝いした敬老祝賀会の、家族と一緒に写真も見受けられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者同士の活動や他ユニット同士の交流を通常の生活の中に取り入れ、関係が築けるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、他事業所での生活状況などを確認し、経過を把握しながら必要に応じて相談等話をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行に伴い、本人の意向確認が困難な場合が多い。本人の生活歴や家人からの聴取、日々の生活を観察しながら推測し検討している	利用者によってはその日の状況で介助されることを好まず、お風呂や歯磨きなど自分の意図しないことについて動かないことがあるが、職員の都合を押し付けずに見守る体制をとるようにしている。意思のはっきりしている方には行動を起こす前に必ず声かけをして確かめ支援している。意思表示の難し方にも声掛けをしてから行動に移している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時等を利用して、少しずつ本人や家族から聴取し、サービス提供に活かせるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族から聴取した内容を基に、日々の生活状況をみながら、本人のできること探しに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討会等で課題の抽出や整理を行い、ケア状況の確認をしている。本人、家人の意向を聴取しながら介護計画書を作成しているが、連続したサービス計画等に不備がみられたことから、計画作成担当者を主に改善会議を開催、介護計画に沿ったサービス計画の必要性を再把握、確認しながらサービスの提供に努めている	担当者会議を開き、意見を出し合い、計画作成担当者がプランを作っている。また、利用者や家族から希望を聞きプランに反映するようにしている。職員の居室担当制とし、主に居室担当者がプランの評価を行っている。短期目標の見直しは3ヶ月で、目標に関わるサービス内容は具体的な表現で分かりやすくなっている。全員のプランのファイルを1ヶ所に置き職員間で情報共有し、毎日確認しながら常に計画に沿ったケアが行なわれるよう努めている。	

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録されスタッフ間にて共有しているが、スタッフ個々によって記録の記載に不備がみられたため、改めて全スタッフに再指導し、記録の記載内容の改善を図りながら実践に活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族個々の希望などに応じて話し合いを行い、外出や食事提供のことなど出来る限りの対応に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供たちとの交流や、各行事等での地域の方たちとの接点をもち、閉鎖的な施設での暮らしに少しでも多くの楽しみを提供できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各主治医による訪問診療や必要に応じた受診体制をとっている。各主治医や家人に相談しながら必要な医療を受けてもらっている	ホーム利用前のかかりつけ医の継続をお願いしている。希望により三分の一の方が協力医へ変更しており、定期的な受診の付き添いは家族をお願いしている。かかりつけ医や協力医による往診も行われ、必要時、歯科医師の往診も可能となっている。かかりつけ医との連携は管理者やリーダー、看護師を中心に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理は看護職、介護職が連携を取りながら確認し、状況に応じて受診をしている。また、同一法人内の看護師との連携体制を構築している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	役職、看護師を中心に、病院関係者との情報交換に努め、また、お互いの関係作りに配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化により、家族、主治医、総合病院や各機関と連携を図り、終末期のあり方について相談をしながら方向性を決めている	契約時に看取りについて説明をしている。職員は外部研修や隣接する特別養護老人ホームでの研修に参加しホームに帰り伝達研修を行っている。終末期をホームで過ごし看取り時期になると特別養護老人ホームへの住み替えをグループホーム側から相談している。できる限り利用者や家族の希望に沿えるような対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な非常事態に備え、連絡網、緊急時等マニュアルを整備し、研修等を通じて確認し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防水計画を作成し、年2回の防災訓練や緊急連絡網の確認を行っている。地区合同での防災訓練の実施や防災協定の確認を行っている	年2回消防署へ計画書を提出して昼間と夜間想定での訓練を利用者も参加している。訓練には区長や消防団員、自警団員、近所の方の参加をお願いしている。外部の方には事前に車椅子の押し方などを講習していただき、当日は消防署員から初期消火、通報訓練等の指導がある。地震対応の訓練も行った。昨年の春先に長野市一帯が停電になったことから、食料品等の備蓄の他に大型の石油ストーブなども用意した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の思いや考え、また生活歴や人生観を出来る限り把握確認し、人格への尊重を主に対応している。また、委員会などを通して現場での声掛けやケアが適切に行われているか確認し合っている	法人に「権利擁護委員会」が設置されホーム職員も所属している。会議等での情報は職員が共有できるように伝達している。利用者には名前や苗字にさん付けで声がけしている。異性介助を嫌がる利用者に対してはその時だけ交代しているが、お互い慣れてくると信頼関係から拒む方はいないという。常に利用者の思いを把握するようにしながら行動に移している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難と思われる場合でも、常に意向を確認する声がけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にやりたいこと、また職員から活動を提供しながら様子を観察。個々に楽しんで頂ける、希望要望に対応できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する服を一緒に選んだり、入浴後等手鏡を渡して身だしなみに興味をもって頂けるよう支援したり、家族に協力してもらい、定期的に衣類等を持参してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事行為に対する状況を観察し、形態や自力摂取行為の継続支援を行っている。配膳、下膳、食事の下ごしらえなど各自のADLや認知のレベルに合わせてスタッフが一緒にやっている	日により違うこともあるが殆どの方は自力で食べており、全介助の方が若干名いる。食事の提供方法も個々に対応がされており、一人ひとりの力が発揮できるように見守りと声掛けで3ヶ所ぐらいに分かれて取っていた。野菜の皮むきや片付けをしたり、食器を洗う方など、利用者もできる範囲で関わっている。ホームのミキサー食は見た目は常食と変わらず中が柔らかい状態で、味も、見た目も食欲増進に繋がるのではないかと考えられた。嗜好調査からホーム利用前は麺類を食べていたという方が多く、行事に合わせてそばやうどんを食べる機会を作っている。	

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の確認、摂取状況に応じた食事形態の検討、栄養補助食品等の提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きに関しても個々に応じた習慣の違いがあるが、基本、毎食後に介助が必要な方はもちろん、自立している方にも声かけを行い実施を促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを基に、個人の排泄パターンを把握確認しながら誘導を行ったり、できる限りトイレでの排泄を促している	布パンツ着用で自立の方が半数ほどいる。自立の方も含め見守りや支援は一人ひとりに応じた対応をしている。自立の方が失敗した時など、利用者本人がそつと下着を洗うこともあるが、自尊心を傷つけないように声掛けなどを行っている。夜間自分の意思で起きたり、職員の誘導でポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認と服薬確認、水分摂取の促しを行っている。必要に応じて主治医と相談し点滴対応する時もある。また、適度な体動を促すため、ラジオ体操や散歩に出かけるなど便秘改善のひとつとして取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、個人の入浴する曜日や時間帯は決まっているが、本人の意向を事前聴取しながら可能な範囲で調整をし、対応している	1週間に2回、30分位の時間で入浴していただいている。1階はユニットバスにリフトが設置されており、2階は大きめの検風呂で、浴室にはパネルヒーターがあり脱衣場にも床暖房の他にハロゲンヒーターを使用し温め準備している。季節のお風呂(リンゴ・ゆず)も行い目先を変えている。全介助の方から一人で入る方など様々であるが、常に職員1名が介助し安全に配慮しながら見守りもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、昼食後は午睡を促している。居室に限らず個々に応じた休憩時間・場所の確保をしている。状況に応じては、延食するなど柔軟に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容や変更時など、看護師より注意事項や薬品名カードの提供を受け、閲覧ボードにはりだすなど周知徹底をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦として過ごしてきた家事全般、好みに合わせたアクティビティ(パズル、ゲーム、歌、裁縫など)や寝酒の提供、散歩やドライブを行っている		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課としている者や、家族と一緒に外出している者など戸外に出かけられている。年数回外出支援を計画している他、その時々に応じた外出支援を行っている	古くからの住宅地にあるホームは周りに住宅や家庭菜園などもあり天気の良い日には2・3人で散歩に出かけている。春のお花見、秋の紅葉狩りなど、ホーム周辺には寺社を始め格好な場所が沢山あり、その都度、場所を変えて数名ずつで出かけている。昨年は善光寺の御開帳があり、回向柱に触り手を合わせてきたという。外出先での外食も利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭はスタッフが管理しているが、本人の意向に沿って金銭を所持している方もいる。必要に応じて、スタッフや家族と買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や近状報告の電話の取次ぎ、絵手紙や礼状の作成支援、投函をおこなっている。携帯電話を所有している入居者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃に加え、共同スペースの配置換えを行ったりと生活しやすいよう適宜工夫をしている。季節に応じてよしずを張ったり、庭に出ての植物の生育や草取りなどでもできる限り危険を軽減させられるよう改善を行っている	ユニットは1階と2階に分かれ、間取りはほぼ同じになっている。広い共有スペースを挟んで各居室がありキッチンと食堂がユニット入口側に繋がっている。共有スペースにはソファやテレビが置かれ広いリビングとなっている。昼食後ソファに座り職員とゆったり話したり、見守る人の気配を感じ安心してうたた寝をする利用者の姿も見られた。リビングの棚にはレクリエーションで使用する、地元の松代かるたやジグソーパズル等が置かれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには談話スペースや横になれるスペースを設け、その時々に応じて自由に使ってもらい、必要に応じて配置換えをおこなっている。食席にも配慮し、気の合う方々との食事時間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合っって自由に持ち込んでいただいている。当施設での思い出の物を飾り、「今」を感じてもらえるような工夫をしている	ベッドと洗面台、クローゼット、はめ込み式の飾り棚が備え付けられている。タンス、テーブルなどを持ち込み、家族と一緒に工夫し、飾り棚に地元の風景画や置物などを飾り、利用者の好みの居室になるように職員も配慮している。お気に入りの帽子をいくつか重ね、すぐにかぶれるように置いている居室も見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築物の維持管理を行いながら、個々の状態に合わせてながら居室の表札や、各設備室の表示を行い、自身で把握しやすいよう工夫している		